歌集

上

へ4
224
1

東京帝國大學圖書之印
明治廿三年九月五日購求
門 利 騎 224 巻 1

古今和歌集序

夫和歌者託其根於心地發乎花於詞林者也人之在世不能無爲思慮易遷養樂相感生於志詠形於言是以鬱樂怨者其吟愁可以述懷可以發憤動天地感鬼神化人倫和夫婦莫宜於和歌倭謌有六義一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌若失春鶯之囀花中煢輝之吟樹上雖無曲折各発歌謠物皆有之自然之理也然而神世七代時質人淳情欲無分和歌未作逮于素盞烏尊剏出雲國始有三十一字之詠今反歌之作也其後雖天神之孫海童之女莫不以味哥通情者蓋及人代此風大興長歌短哥旋頭混杳之類雜躰非一源流漸滋蠶猶拂雲之樹生自寸苗之煙浮天之波起於一滴之露至如難波津之什獻天皇冨緒河之篇報太子或事顯神異或興入幽玄但見

上古哥多存古質之語未為耳目之翫後為義飾之端亦
天子無良辰美景詔侍臣預宴延者獻和哥君臣之情由斯
可見賢愚之性於是相分所以隨民之欲擇士之才也能
大津皇子〻初作詩賦詞人才子慕風繼塵移彼漢家之
字化我日域之俗民業一改和謌漸衰然尚有先師拓本
太史者高振神妙〻思摺古今之間有山邊赤人者並
和歌仙也其作業和哥者綿〻不絶及彼時變澆漓人貴
奢淫淫詞雲興艶流泉涌其實皆落生花孤榮玉色
之家以此為花鳥〻使乞食之客以此為活計之謀故半
為婦人〻石麻呂太夫〻最近代存古風者纔一二人矣
長歌不同論以可辨也山僧正哀得哥〻躰然其詞花而
少實如畫畫好女徒動人情在原中將之歌其情有餘言
詞不足如蓂花雖少彩色而有薰香文琳巧詠物然其躰
近俗如賈人〻若羅衣字治山僧喜撰乞詞華麗而首尾

傳灌如望秋月遇曉雲小野小町之歌古衣通姬之流也
然艶而無氣力如病婦〻若花彩大友黒主之歌古猿丸
太夫之姿也頗有逸興而躰甚鄙如田夫之息花前也此
外氏姓流別者不可勝數其大底皆以艶為基不知歌之
類者也俗人爭栄利不用謌和歌悲哉〻〻雖貴相將
富餘金錢而骨未腐土中名先滅於世上適為後世彼和
者唯味歌〻人而已何者語近人耳義慣神明也昔平城
天子詔侍臣令撰万葉集自尓以來時歷十代數過百年其
后和謌亦不彼採用雖風流如聖宰相輕情如在納言而
皆以他支閑不以彩道預
陛下御宇于今九載仁流秋津洲之外惠茂筑波山之陰
洲麥為粥〻聲寧〻閑口砌長為叢〻頌洋〻滿耳思繼
既絶〻風欲興久廢〻道愛詔大内記紀故則御文所形
紀貫之第甲斐少掾紀友沔内躬恒石衛門府生壬生忠岑

等献家集並古来舊歌曰續万葉集於是重有詔部類所
奉之諸勤為二十卷名曰古今和歌集活等猶少春秋之
艶名竊欽夜〻長況哉進恐時俗〻嘲退慙才藝〻拙適
遇和謌之中興以樂吾道〻再昌嗟乎人丸既没和歌不
在斯哉于時延喜五年歳次乙丑四月十八日臣貫之等
謹序

右者以
飛鳥井大納言雅章卿秘事之御點本正寫之畢

延寶二甲寅歳三月發行
寛政十戊午年九月重鐫
文化九壬申年七月求板
江戸淺草茅町二町目
須原屋伊八

屋海と歌をよみ人乃心を毎日とそ
なるまりける世界にあるゝ人〻わさ事をのあれたんな
りける事をとるものなく物のあはれを花
よりもなくうくひすをまつよりもむしのこゑをきけ
しいろをもしらぬ草木をもあはれとおもふこゝろ
をもてはかなくちをうこくめぐみしぬれよ神をも
動とかりけるとかなくさもしるへきなりけ
ぬ乃心をもなくさむるはかりなりけ
神代にはかりけるとかりけ
ありけるとかりけ
ひさかたの乃はめにけ〻くもの世にはさかるこゝ
ろそなるひめとはのるみこゝろをめ〻せうとの神代のうちかくさめ〻うりてそ
をとめのうえひもをうこゝ波へ〻こゝをもうこゝはかりのうえをうこゝ海をうこゝをもうこゝ
はけ〻ぬ〻こゝりの地わらかの乃はけちはみ〻くハすさをを乃みこと
まうとうおこうこゝ海ちうやこゝ神代よりうこゝをけりこゝを

[illegible]
乃世となりてすきものとのみ
ひとり〳〵はよろづ[illegible]
[illegible]
[illegible]
なり
[illegible]
かくてそ花をめてとりをうらやましくいとをはつれこそ
をうなすゝめんとて祭おりの
[illegible]
たちさゝもりとれちりひちりてはまをたた
あひくまておひのわまるとくふこのうをくれく
なるあ〳〵なふ津の歌をみとのおろんそ〳〵先たり
おもさ〳〵紀乃みとのあふりてみとき[illegible]
[illegible]
[illegible]
あきらふ山れとのそうめ乃たそふまてもりもんて

[illegible]
[illegible]
乃ろ〳〵[illegible]
こ乃ふ[illegible]歌[illegible]父母の[illegible]
先ふもし〳〵[illegible]
[illegible]
おかさ〳〵紀乃西門をそ〳〵[illegible]
なふ津よさ〳〵やこれ花ふめこそり
とハ美〳〵とさ〳〵やあの[illegible]
[illegible]
さく花よふひたく[illegible]
いつきれいふをもちこしてといつるなる〳〵
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あとふさ〳〵やまとこ[illegible]

[illegible]

我意はよもむとも法さしありて海の浜乃
まさごをよみたりけるともといるなるへし
これは[illegible]の若木名をつゝ物よつまてゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]

そへて人をあひ松ぞ乃秋ぞ乃ゆふ
松をあひおいの春〳〵に
てをゝ〳〵ゝ乃一時をゝ秋の
めゝる又春乃あ〳〵ゝゝ
のゝ乃おりふをゝ
ゆる雪と波ゝゝ
ゝゝ乃ゝ
ひ世ゝゝ
波をゝけ野乃
ゝゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝ
ゝゝ乃ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大友のゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

紫ハ春乃花ま[illegible]ひとくさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

春ちかくなりぬとや思ふらん白雪のふる枝よりさきそめにける

[illegible]

ゆきふりてそめし枝のうめの花ちりぬるかぜのなごりなりけり

成人乃いとくさにそれなりけるさまかいまゝ地さゝの事

二条乃后のうゑ宮のうへやもむかしとときあるゝ時正月ゝ日雪乃ふりけるあひだに日をてりあゝ雪乃ふりけるをとりあつめて

ゆきのうちにうめの花のさきたるを折てよみける

春乃日の光りのかゝるかぎりあれば雪とぞなるゝ花とぞちる

[illegible]

雪のうちにうめの花のさきたるを見てよめる

春乃始よりゝ

はるかぜにとけぬるゆきのなごりにてうめのはなのかをぞ[illegible]

春乃始めつかた

春さめとゆきのいとしもまがへつゝうぐひすのこゑ

[illegible]

寛平乃御時きさいの乃宮の歌合の歌

源まさのぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春はさくら花乃衣ぬぎすてゝ山風ふきてみどりつゝなれ

寛平御時きさいの宮の歌合のうた　源むねゆきの朝臣

ちさかなる松乃緑も春ごとに花さきかへるものとしらずや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅を　白川院御歌

月ゆゑ　[illegible]

月ゆゑよりはうきものもなし　梅の花　[illegible]

[illegible]

[illegible]

よれ井ゐさて梅乃ゐらせ八素乃ん人さのとをうら海
[illegible]
いつそ[illegible]なくりれ梅あ[illegible]てもちんゐぬ人さあ
山のさうとみて後る
乃そのゐ人ゐうちん梅ゐ[illegible]
[illegible]
みうゐ八柳梅をこれまをて新そ素乃勝なりる
梅乃花れうしてゐれ者
[illegible]
[illegible]
梅を後る
[illegible]
[illegible]
梅あされよるうしも是引の山れのひちうんゐる志雲
実事問ふ乃文れ歌合の
[illegible]
みう後れ山ゐさける梅者[illegible]

ゆきひふうう八月あるとうるもうん

梅者素ううれ乃ゐ[illegible]人乃ん[illegible]あ[illegible]れ屋はさぬ
[illegible]
ゆうとうれ[illegible]て後梅者[illegible]
[illegible]
[illegible]

古今和歌集巻第二

春歌下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅乃はなちるを
梅のはなちるを
久堅の空より雪の
春風は梅乃はなをとりて
雪とのみ
梅乃はなをちらす
春乃色は
春乃はるは
梅乃はなちるを
梅乃はなちるを
春乃はるは
春乃はるは
春乃はるは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第三

夏歌二

[illegible]

我やどの池の藤なみさきにけり山ほとゝぎすいつかこゑする　後人よしみね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨のあめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋乃野乃草の露をとりあつめ玉とぬきかけるかな

[illegible]

秋とはなをもつくさぬ遠山の梢の紅葉ぬしやたれ

よみ人しらず

雁の来る時に成りぬと聞くなり秋の田の面の雨の夕暮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋萩乃亜さにはよりうるはしの萩をのへの藤をつまやなん
むしのひきりて侍りける人乃秋れ侍りてわひてよめるらし
又侍る
秋ちれ乃ふるえよさけ亜亜亜れえとよの人ハ忘れさりう
[illegible]

ひのさ萩乃下葉ふ色侍くとしらやひとりあれ人乃ひとはな
ゆるさらうる乃ハ秋やおちらん侍りん物とよ宗れ萩乃ちる萩
萩乃葉亜亜にぬんと〳〵秋てきぬ〳〵又人人ハ秋ちるらに
はる人のえひこの八ちしれみしの山秋と
をりて見ハおちらにぬへさ萩乃枝をたりにいにおきる白露
萩ち花ちるんとの〳〵葉乃葉ハよぬまてとゆんさよハふくも
光貞のみこ乃亜のこの合よ侍る
秋乃野にかくれ白露ハ亜亜亜ちの
[illegible]
ふめ亜〳〵白ちるうりそ
侍る亜亜

侍る亜亜亜

人のこゝろとわたくしに紀ゆきの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋乃華ヲ用ふるさりハうさ
白菊ハ花を後ろ
第てふをうつやれうんの素
山まさきハみんなの歌ハ所今のうち
色うつ秋乃華ハ八一とさに
仁和ちんさくれ花先ハけ
ありとられハうんくさ
秋をあ紀て時うちうれ華乃花うつ
人の家から華ハ華ハんふ
さ紀て先ハ中ハうれた蔦ハ
鈴ハ
さ海山ハて秋乃紀ふうりぬ
文ハうんひさハうまう
ハ後ハ
ハ後ハ
ハ後ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第八

離別歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第十

物名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条后宮にすみはべりけるころ
東の方に桜の花のさかりなりけるを
見てよめる　在原業平朝臣

世の中にたえて桜のなかりせば
春の心はのどけからまし

寛平御時后宮歌合の歌
　　藤原敏行朝臣

散ればこそいとゞ桜はめでたけれ
うき世になにかながらへぬべき

　　紀友則

ひさかたの光のどけき春の日に
しづこころなく花の散るらん

　　紀貫之

桜色に衣は深く染めてきん
散ぬる花の名残なるべし

　　凡河内躬恒

あたなりと名にこそたてる桜花
年に一度ぞ人もとはなる

　　僧正遍昭

桜ばなちりぬる風のなごりには
水なきそらの波ぞたちける

　　在原業平朝臣

桜色の衣にほひ深くとて
やまぶきの花の色をうらやむ

　　紀貫之

桜ばなちりかひくもるはるの日の
くれがたきのみ人の心を

　　僧正遍昭

桜ばなちりまがひたる木の下は
ふるき人にあ[illegible]

　　紀友則

桜ばなちりぬるかぜの名残には
水なきそらの波ぞたちける

　　在原業平朝臣

桜ばなちりぬるかぜの名残には
水なきそらの波ぞたちける

　　紀貫之

桜ばなちりぬるかぜの名残には
水なきそらの波ぞたちける

　　僧正遍昭

[illegible]

[illegible]

[illegible]